

## 2. 河川の形成の歴史

### ①益田平野の発達

益田平野は高津川、益田川の両川による堆積作成で形成された平野である。

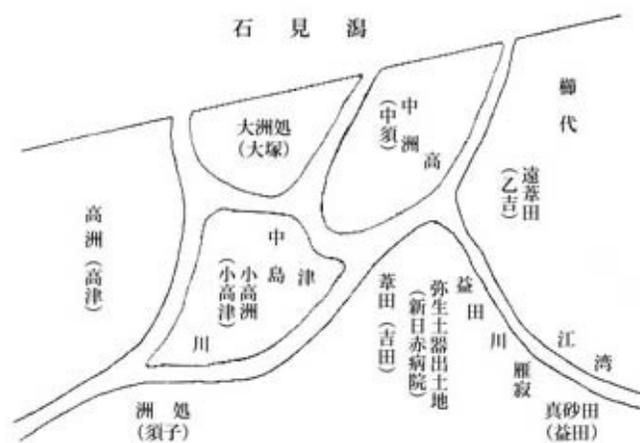
弥生時代には吉田平野の乾燥した低地には人類の生存があり、更にはそれは古墳時代までも人類生活が及んでいた。(弥生土器発掘)

4世紀後半には益田、須子の一帯はすでに砂地になっていた。

その後両河川は沖積を早やめ、吉田の地が陸地になった頃、高津、益田の両川の沖積化は北へ進展し、一方では日本海を襲う波浪による漂砂とあいまって、吉田の北部に、中の島、中須、大塚、高津の諸地を出現させた。(図—2—1参照)

その後これらの諸地は高津川の変異と砂洲建設の進捗と共に現在の姿となったものと思われる。

(図—2—1参照)

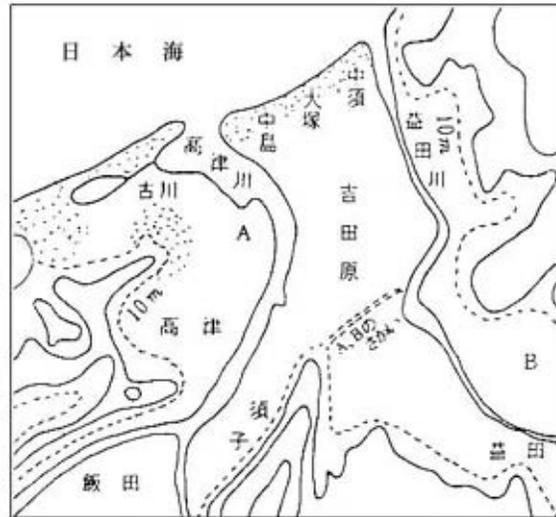


従来の吉田平野

益田平野における高津、益田両河川による堆積分は図—2—2のとおりとなっている。

両河川の流域面積は高津川 1,080 km<sup>2</sup>、益田川 116 km<sup>2</sup>である

(図—2—2)



吉田平野の二流域 (江戸時代以降)

A…高津川の堆積作用

B…益田川の堆積作成

(益田平野の開発経緯)

年号	西暦	開発場所	開発者	開発面積	摘要
寛文元年	1661	吉田地内	寺井与右衛門	1町3段1畝 2歩	津和野藩の河川改修のため河川が杜絶された旧高津川 (前川)
安永6年	1777	中ノ島村新川床 永呑地	田村常左衛門	2町5段2畝 3歩	後川の開発
		中ノ島村飛地	右田三郎右衛門		高津村側の中ノ島村飛地が数百間も野原と化していたが開墾を行った。
文化14年	1817	高津浜中瀬の芝原	高津兵部落民	3町8段2畝 23歩	古川附近
安政6年	1859	中ノ島村の古永 呑引付け地	右田三郎右衛門 矢富彦一郎		前川
文久元年	1861	中ノ島、下吉田 中吉田の古川床	右田三郎右衛門	11町9段6畝 18歩	名越堰堤築造を行なってから開発をした。(後川)
文久2年	1862	中ノ島、 字松ノ元	々	5畝歩	